



巻頭言

主体的・対話的で深い学びの先

両沼小学校長会副会長 大越 久
(柳津町立柳津小学校)

大リーグでは、令和6年の大谷翔平選手の活躍は凄まじいものがありました。令和7年は、大谷選手の二刀流とともに、佐々木朗希投手の活躍が期待されています。佐々木朗希投手のピッチングコーチとして指導にあたり、佐々木投手からの信頼が厚いのが、現監督の吉井氏です。吉井監督は、一人一人の個の「モチベーション」を大切に指導にあっているといいます。吉井監督は、選手時代に「いいから、言われた通りにやれ」と指導され、モチベーションが全く上がらず、過ごした時期を大変後悔していました。指導を受け、自分で考え、理解し、納得がいかないときには質問し、納得解にたどり着く。するとモチベーションが上がり、主体的になれるというような話をしていました。なにか、現在の「学びの変革」の背景に似ているような気がしました。

主体的・対話的で深い学びを掲げ、小学校では、平成29年3月に告示された現行の学習指導要領は、今年の3月で8年になります。また、2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型教育」の姿も2025年を迎えた今年、折り返し点にさしかかろうとしています。それらの内容が、各校の努力により着実に前進していると感じています。

令和7年1月の大学入学共通テストは、現行の学習指導要領に対応した最初の試験で、「情報」が初めて実施されました。現高校3年生は、小学校からプログラミングに触れてきました。そして、高校1年生になった令和4年度から必修となり学習してきました。「情

報I」は、情報技術を活用して情報社会に主体的に参画する能力を目指し、プログラミングやデータ活用を学びます。今回の共通テストでは、複数人で作業を分担するためのプログラミングを考えさせたり、日本国内の旅行者数のデータを分析したりする問題が出題されました。ちなみに、この「情報I」という教科ですが、国立大学協会は、『入試に課す教科・科目は、「情報」を含む6教科8科目を原則とする』としたため、ほとんどの国立大が必須としたそうです。

そんな中、文科大臣は、学習指導要領の改訂にむけて中央教育審議会に諮問しました。今回の諮問では、生成AIの技術などが普及・進化する中で、情報活用能力の向上を図る方策や学校での探求的な学びの実現に向けて議論してほしいというものです。特に強調されているのは、画一的な教育から脱した柔軟な教育課程の在り方です。子ども達の多様な能力や個性に応じ、それぞれのペースで学習できる教材や方法の工夫が求められるなど、「個別最適」がさらに進化していくように感じました。次期学習指導要領は、現行の学習指導要領の先にあります。文科省は2026年度末までの改定を目指し、2030年度から新しい教育課程を順次スタートしたいという考えを示しています。

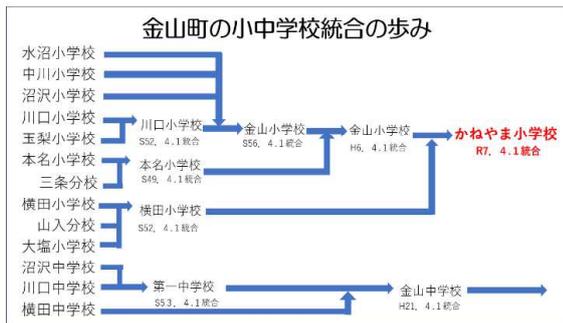
私たちは、いかに自身の「モチベーション」を高め、自身の主体的な学びにつなげていくのか考えていく必要があります。「準備と言いつく事を排除する」イチローの言葉が刺さります。

特別寄稿

学び舎は時代とともに・・・



金山町教育委員会教育長 押部 秀隆



今年金山町は合併70周年を迎えます。その歴史を振り返ってみましょう。1955年(昭和31年)3月31日に川口・沼沢・本名・横田の4つの村が合併して『金山村』が発足し、1958年(昭和33年)4月1日の町制施行により『金山町』となりました。当時は、鉱山操業や発電所工事などの影響により、町の人口も10,119人と多く、小学校は8校(水沼・中川・沼沢・川口・玉梨・本名・横田・大塩)、分校が2校(三条・山入)あり、中学校も3校(沼沢・川口・横田)ありました。当時の児童数1,355人、生徒数684人でした。

その後は人口が減少していき、上の表のように小・中学校の統合が進みました。そして今春には金山小学校と横田小学校が統合し、『かねやま小学校』となります。単式2・複式2の全校4学級になります。中学校は平成21年4月に『金山中学校』として統合されています。よって、令和7年4月からは、小・中学校共に1校となります。因みに現在の人口は1,720人(2月6日現在)、児童数34人、生徒数13人です。

校長先生の中には、母校が統合した方もいらっしゃると思いますが、何を隠そう私も小・中学校は統合しています。しかし幸いな

ことに、小学校の建物は「自然教育村会館」として残っています。母校が無くなるのは大変残念なことです。

学校教育も、時代と共に変化しています。学級編制基準は昭和34年度50人でしたが、段階的に引き下げられ35人になります。他にも「総合的な学習の時間」「学校週五日制」「特別な教科 道徳」「小学5・6年生の外国語活動」「全国学力テスト」は2007年(平成19年)から実施されています。また、従来は一方通行の画一的な授業でしたが、「個別最適化された学び・協働的な学び・探求的な学び」へと令和の日本型学校教育として「学びの変革」がされています。

さて、金山町の教育に目を向けると「郷土を担う心豊かな人間の育成」を教育目標に掲げ、ふるさと金山町の自然・文化・行事・地域の人に触れる等の活動を計画的に体験させ、金山町の良さを知り、金山町に誇りを持つ児童生徒を育てています。地域の良さが分かることで児童生徒が大人になり、本人や子供、孫が金山町に戻り定住してくれることを期待しています。しかし、超少子化の影響で教育に及ぼすデメリットも多く、切磋琢磨の機会が減少し、学校行事や部活動が困難となっています。

校長は教育者としての資質はもちろんのこと、判断力・決断力・交渉力・組織マネジメント力が必要です。それに加えて自校だけでなく自校の町村全体など内外環境を教職員間で共有した上で、学校教育活動の強みや適性等を生かした教育計画を作成し、実践しなければなりません。ぜひ、意気軒昂して、活躍してほしいと思います。

各部反省から

【行財政部】

金山町立金山小学校 矢部 吉彦

今年度の主な活動について、次のとおり報告します。

- 5/9「第1回県行財政部（会）長会」
福島県教育会館
 - 令和6年度教職員人事の反省について
 - 令和6年度の活動及び調査について
 - 県小・中学校長会要望活動について
- 5/8～17「県行財政に関する調査」
 - 調査票の送付及び回収
 - 結果集計及び県への報告（5/28）
- 8/23「令和6年度教職員人事の反省（県集約）」の配付
- 8/28「令和6年度教育行財政に関する調査報告書」の送付（メール添付）および県小学校長会ホームページ閲覧の案内
- 2/6「第2回県行財政部（会）長会」
パルセいいざか
 - 令和6年度の反省について
 - 令和7年度の計画について
 - 令和7年度人事の反省について
 - 令和7年度調査について

例年のことではありますが、校長先生方には、ご多忙の中、行財政部の調査や要望活動等へご協力いただきありがとうございます。また、3月には例年どおり「教職員人事の反省」の提出をお願いすることになるかと思えます。時間がありませんが、その際にご協力をよろしくお願いいたします。

来年度も本県及び本支会の行財政上の課題について、ご意見、ご要望やご助言をいただきながら解決へ向けた取り組みができればと思えます。



【研究部】

会津美里町立宮川小学校 伊達 明美

「学校としてではなく、校長としての研究、取組である」「支会（地区）全体、全員の校長先生の学びとする」という県研究部長会での指導内容を両沼地区校長先生方へ伝達させていただいたことがあります。折々に「両沼は一つ」と実感する中で、本年度の研究推進においても校長先生方のご協力を賜り、両沼地区校長先生方との連携と協働を感じることができました。両沼としての研究推進が本年度の成果であったと考えております。校長先生方には、推進へのご理解をいただきました。感謝申し上げます。

本年度の組織より「選択」をなくし、「発表」のみとなりました。14名全員で「健康で安全な生活を営む実践力を育てる教育活動の推進」を研究内容として協議実践を積み重ねました。

夏季研修会では、各校長の取組について報告し、健康教育に関する共通実践事項を設けることで、さらに研究を深める必要が確認されました。

10月15日には第53回福島県小学校長会研究協議会両沼支会大会を開催しました。横田小学校 飯塚秀一校長より両沼支会の研究を発表し、県幹事 相沢周様よりご指導をいただきました。健康に係る実践力について、児童の姿として成果を期待するという今後への助言を得、両沼全校長が確かに健康教育をマネジメントするための共通「グランドデザイン」「年間計画」様式の作成に至りました。

冬季研修会では、共通様式によって計画された取組がそれぞれ始められていることを確かめ、自己の取組への参考とすることができました。

練り上げた計画のもと、令和7年度の確かな実行によって、両沼の子ども達の健康への実践力が育まれることを期待しております。

【生徒指導部】

湯川村立勝常小学校 荒川 信一

今年度も、生徒指導部の活動にご協力いただきありがとうございました。今年度の生徒指導部長としての取組について報告します。

【活動内容】

- 5月 調査C：調査依頼：集計：事務局提出
部長会持参資料作成
第1回生徒指導部長会
- 7月 調査AB：調査依頼：集計：事務局提出
- 8月 調査結果報告に係る通知
- 11月 部長会持参資料作成
第2回生徒指導部長会
- 12月 部会内容報告を地区内に周知
- 1月 代表部長会

【成果○と課題●】

- 各調査への取組は、各校が実態を再確認するとともに他校の状況と比べることにより自校の傾向を把握する機会となった。
- 地区部長として県部長会に参加し、有識者による講演を拝聴したり他地区の先生方との情報交換ができたことは学びが多く有意義であった。これらの成果をより効果的に地区にフィードバックすることが課題といえる。
- 持参資料作成のため両沼地区内各町村の状況調査をした。その調査により、スクールカウンセラーの活用条件等が町村によって異なっているなど地区内の状況を知ることができた。反面、条件等が不揃いのなか諸問題を地区の傾向としてまとめることは困難であった。
- 両沼地区内において、調査結果をさらに有効に生かす方策があったのではないかと反省している。地区徒指導部長として、より地区に役立つ情報を還元できる取組も探していきたい。

【広報部】

柳津町立西山小学校 齋藤 知宣

今年度も例年と同様の時期・回数の発行を計画しました。柳津町、湯川村、金山町の各教育長様のご協力による特別寄稿を含め、校長先生方には快く執筆していただき、予定どおり年間3号を無事発行することができました。お忙しい中のご協力に感謝申し上げます。ありがとうございました。

第144号では、博多会長の巻頭言、柳津町教育長様の特別寄稿、御退職・御転出された校長先生方からの両沼の思い出およびメッセージ、また、現会員の近況報告、学校経営・実践紹介、教育随想・所感で構成しました。

第145号では、菅家副会長の巻頭言、湯川村教育長様の特別寄稿、新任校長の所感、地区内異動所感、教育随筆・所感を掲載しました。

また、今号の第146号は、大越副会長の巻頭言、金山町教育長様の特別寄稿、各部や諸団体による1年間の活動の様子や反省をお寄せいただきました。

お陰様で3号の会報とともに、執筆の皆様方の思いがたくさん詰まった読み応えのある内容になりました。「広報両沼」が、少しでも校長先生方の学校経営に役立てば、こんなに嬉しいことはありません。

最後になりますが、お忙しい中、原稿をお寄せくださった皆様方に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。今年度は、学校数、会員数、異動件数の減少により、各会員が複数回執筆していただくようになってしまったことを心苦しく思っております。来年度は、発行数を減らすなどの計画が必要ではないかと感じております。

今年度も広報発行にご協力くださいましてありがとうございました。

諸団体活動から

《学校図書館協議会》

湯川村立箕川小学校 前田 敬

今年度も、県研究主題「未来を拓く 学びをひろげ、豊かな心を育む 学校図書館」を受け、「(1) 子どもの感性を磨く読書指導」「(2) 子どもが主体的に教科・領域の学びを深める情報活用」「(3) 子どもが集う魅力ある学校図書館づくりとその運営」を研究の重点として研究を進めてまいりました。

5月23日(木)の両沼地区学校図書館協議会総会・研修会においては、各校の学校図書館経営のめあてを確認するとともに、各校の学校図書館教育の取組状況や課題について情報交換を行い、各校の実情に合った実効性のある学校図書館教育の充実・発展に努めることができました。

また、11月13日(水)、平田村立ひらた清風中学校並びに蓬田小学校を会場に開催された「第70回福島県学校図書館研究大会石川大会」においては、第1分科会(読書指導)の問題提起者を会津美里町立本郷学園(後期)の星 嘉人先生が務め、テーマ「子どもたちの読書意欲を高める取り組み」の下、「(1) 朝の読書活動の積極的な推進」「(2) 学校司書や図書委員と連携した取り組み」「(3) 国語科の授業の中での取り組み」について実践発表を行い、全校生徒の読書への興味・関心の高まりに大変効果的であったことを述べることができました。尚、本発表は、次年度の東北大会青森大会でも行われ、さらに実効性のある実践を伝えることができることと思います。

最後になりますが、9月19日(木)の読書感想文コンクール審査会には、子ども達の素晴らしい作品が数多く出品され、先生方の熱意とご指導に心より感謝申し上げますとともに、学校図書館担当の先生方の出席につきましてご高配いただき感謝申し上げます。

《学校給食研究会》

会津美里町立新鶴小学校長 鈴木 祥晃

今年度の両沼学校給食研究協議会は、夏季休業中の7月24日(水)に、会津坂下町立坂下中学校において、「シェフから調理技術を学ぶ～子どもが喜ぶ夏野菜メニュー～」をテーマに、「人と種をつなぐ会津伝統野菜」会長 長谷川 純一 様 と「Teppanyakiあいづ家」オーナーシェフ 佐藤 学 様 のお二人の講師の先生をお迎えし、50名を超える参加者で盛大に開催されました。

はじめに、長谷川 様から、小菊カボチャや余蒔キュウリなどの会津伝統野菜がクローズアップされてきた経緯についてのお話をいただき、「子ども達にとって、給食はふるさとの味であり、給食から新たな会津の食文化が生まれる」ことをご教示いただきました。

続いて、佐藤 様から、「塩が決め手」の調理方法を中心に、実演を通してしながらお話をいただきました。脱水のための塩、味付けのための塩、各塩(海塩、岩塩など)の特性に応じた使用方法など、一口に「塩」と言っても様々な捉え方や活用ができることを伝授していただきました。



参加者の皆様は、終始和やかな雰囲気の中、メモを熱心に取りながら、伝統野菜を手に取りながら、味を確かめながら、充実した研修をされ、今後もそれぞれの立場から、「『食』を通して子ども達を育てていく」ことの重要性を再認識して協議会を終えました。

最後になりましたが、講師のお二人の先生方をはじめ、本研究会役員の皆様、協議会に参加された皆様、会場提供及び準備等のご協力をいただきました坂下中学校の先生方に感謝を申し上げます。ありがとうございました。

《両沼地区JRC指導者協議会》

三島町立三島小学校 長澤 敏行

今年度も8月2日（金）に、会津自然の家にて、児童生徒52名・指導者20名の参加の下、両沼地区JRCトレーニングセンター（以後トレセン）を開催することができました。校長先生方のご理解とご協力、JRC担当の先生方のお声掛けに感謝申し上げます。

今年度の主な活動は、班旗作成と防災炊飯、竹ひごタワーでしたが、どれも協働的な活動が求められるものでした。活動が進むにつれて、自然発生的に役割分担が始まりました。中学生は、指示やアドバイスの声掛けをし、小学生は、自分のできることを見つけ出しました。これは正に、JRCの態度目標の「気づき」「考え」「実行する」の姿でした。その場で初めて会ったメンバーでしたが、どの班も活発に動き回っていました。

参加した児童生徒の感想には、「班長の中学生が、優しく教えてくれてとても頼もしかった。」「みんなで協力して、とても高い竹ひごタワーが建てられて、達成感を味わえた。」「小学生が、こんなこともできるんだとビックリした。」がありました。指導者の感想にも「学校では見せない姿が見られるいい機会だった。」「他町村の児童生徒と触れ合うことは、良いことと感じた。」等が挙げられました。

これらの感想から、トレセンの目的である「リーダー性の育成」が達成できたのではないかと考えます。参加した児童生徒が、各学校に戻り、学校生活の中でこのリーダー性を発揮していることを願っています。県内トップの参加数を誇る両沼地区トレセンを、これからも継続していくために、各校のご協力をよろしくお願いいたします。

編集後記

皆様方のご協力により、「広報両沼」第146号が完成しました。本号は大越久副会長の巻頭言にはじまり、特別寄稿として、金山町教育委員会教育長の押部秀隆様より玉稿をお寄せいただきました。また、各部反省および諸団体活動から、年間の活動紹介とともに、今年度を振り返る内容となり、最終号にふさわしいものとなりました。ご多用中にもかかわらず原稿をお寄せくださいました皆様に厚く御礼申し上げます。

さて、今年度、校長会広報部長として広報「両沼」の発行にかかわることとなり、改めてこれまでの校長会広報を見直す機会に恵まれました。懐かしさとともに、当時の課題と真摯に向き合い、課題解決に取り組まれた諸先輩校長先生方の熱意と努力が伝わってきました。それは、現在の学校経営にあっても大変参考となるものでした。（さらに、他地区の広報についても興味をもち、拝見させていただきました。）県小学校長会のHPに、これまでの県内各地区の小学校長会広報が掲載されています。ぜひ、ご覧になってはいかがでしょうか。（年度、地区により掲載されていない号もありますが…）第146号もHPに掲載されます。

今年度も残り1ヶ月ほどとなり、大変あわただしい時期を迎えます。皆様におかれましてはご自愛の上、よい締めくくりができますよう祈念いたします。終わりに、今年度の広報部の活動へのご協力に感謝するとともに、今後ともご指導とご協力をお願い申し上げ、編集後記とさせていただきます。

令和7年2月吉日

両沼小学校長会広報部第146号担当

柳津町立西山小学校 齋藤 知宣